地域資源の循環による農村コミュニティ生計向上プロジェクト～農村青年層のための「ファーマーズ・スクール」

■ 事業概要

セネガルは農業国でありながら、食糧の半分を輸入に頼っています。国内での農業技術・農家経営の指導がほとんどされておらず、従来の粗放な農法（畔を作らず直播栽培）に頼る稲作は結果として生産性が低く、事業対象となる行政村でも、米の購入費が家計を圧迫しています。灌漑設備も発達していないために、稲作はもちろんほとんどの農業は天水頼みです。季節や生育環境を鑑みた作物の栽培組み合わせなど、土地の有効活用や堆肥などを使った土壌改良が計画的にされているとも言い難い状況です。結果として、収入を求めて農村の若者たちは都会や欧州へ出稼ぎにいくことになります。

出稼ぎに行くことなく、村で農業で食べていきたいと切望している若者たちを中心に、現地カウンターパート NGO「Intermondes」と一緒に、JICA 草の根技術協力事業として、「食べていける農業（自然資源の回復と農業経営）」を実践していくためのプロジェクトを開始しました。

■ **実施期間**：2017 年 2 月～3 月（継続中）

■ **実施場所**：セネガル共和国ティエス州ンブール県ンゲニエーヌ行政

■ **受益対象者の範囲および人数**：約 20 か村の青年層約 500～600 人（原則 16 歳～25 歳の青年層（男女）

■ 活動内容・成果・課題

◇研修スタート！「どれだけの水を使っているの？」

事業開始に伴って、2 月下旬に中田代表理事と和田職員が渡航し、村の人たちへの研修が始まりました。農地にはサハラ砂漠から運ばれてくる砂が積もっていて、集落周辺には広大な乾燥地が広がっています。「水を節約しないと」と水利用に危機感を感じている農民たちに対して、「どれだけの水を何の作物に使っているのか」「そして今、どれだけの水があるのか」ということへの理解を促す研修を 3 集落で行いました。長年農業に携わってきた村の人たちですが、作物（あるいは植物）が水を吸収する、あるいは水が蒸発する仕組みや、作物の生育ステージに合わせた水の量の違いなど、その原理をよく理解していなかったことに気づきました。こうして、新しい事業は幕を開け、まずは作物の種類毎に、栽培日数とそれに基づいた必要な水の量を把握することから、村の人たちの作業は始まりました。

◇パートナー団体との事業管理の共有

現地カウンターパート NGO「Intermondes（アンテルモンド）」は、知識も経験も豊富な代表者が率いる、欧州ドナーとも事業を複数実施しているセネガルでも有数の NGO です。しかしながら JICA のスキームで事業を実施するのは初めてでもあるため、ムラ

のミライ事業関係者と Intermondes 事業スタッフたちの間で、事業の進め方や予算・書類管理についても現地で共有しました。

≪JICA「草の根技術協力事業パートナー型」≫

- 従事者の人数：5 人
- 事業費の金額（単位：千円）：3,166

技術能力強化を通した女性たちのエンパワーメント

■ **事業概要**

ムラのミライのインドにおける長年のパートナーNGO である「CeFHA」（Center for Humanitarian Assistance Trust）の事業を支援するものです。CeFHA は、アーンドラ・プラデシュ州ビシャカパトナム県コタウラトラ郡の、山岳少数民族の特に女性と子どもに焦点を当てた活動を実施しています。

■ **実施期間**：無し

■ **実施場所**：無し

■ **受益対象者の範囲および人数**： 0 人

■ **活動内容・成果・課題**

ムラのミライは 2015 年度まで、インドにおいてパートナーNGO「CeFHA」（Center for Humanitarian Assistance Trust）の事業支援を行っていましたが、2016 年度からは支援不要となりました。

- 従事者の人数：0 人
- 事業費の金額（単位：千円）：0